

## 2013 研修会

### 山階鳥類研究所と鳥の博物館見学

米澤理雄・小川洋子

日 時：2013年2月22日（金） 天気：晴れ

場 所：山階鳥類研究所・鳥の博物館（我孫子市）

参加者：指導員32名

担当指導員：田中玉枝、佐藤一枝

#### ○山階鳥類研究所の見学（記 米澤理雄）

スリッパに履き替え、2階の部屋へ。定員30名のところに32名が詰めかけ、所員の方から研究所の説明を受けた。お話は、①山階鳥類研究所の歴史、創始者：山階芳磨博士の経歴から始まり、②標本について、世界に3点しかない貴重な標本・カンムリツクシガモ（冠筑紫鴨）や世界的に進められているDNAバーコーディング、③図書について、3万9千点の図書の収集（その中でもビクトリア時代のジョングールドの鳥類図譜はチョウめずらしく、チョウきれいな図譜です）の話があり、具体的な例を挙げられて④渡り鳥のデータ収集、⑤ヤンバルクイナやアホウドリなどの鳥の保護活動について、丁寧な説明がありました。この研究所は歴史の長さ、グローバルな広さが必要な調査、資料収集、そして未知の分野のDNAバーコーディングなどの研究、と貴重な事物がたくさん積まれており、これからも着実に進展して行くものと思われた。

ここまで興味のある話で、あつという間の1時間でした。

#### ○鳥の博物館見学記（記 小川洋子）

午後の部は、我孫子市鳥の博物館の見学。学芸員の染谷さんの案内で館内を巡った。最初に足を踏み入れたのは「体験学習室」。ダチョウとコブハクチョウの初列風切羽を実際に見て触って、その違いを実感。机の上に置かれたハシブトガラスとハシボソガラスの剥製を見比べ、どこで見分けるか？鳴き声も聞きながらの丁寧な説明があり、よく理解できた。フンボルトペンギンのフリッパー（翼が変化したもの、ひれ状）に触れて、その堅さにビックリ、これがあの強力な泳力を生み出しているのだと納得。観察では視覚、触覚、聴覚など、五感を使うことが大事だと改めて思った。常設展示の「手賀沼の鳥たち」では、昔の手賀沼から現在までの環境変化で、鳥たちのありようも変わってきたことを学んだ後、3階展示室の「最後の1羽にならないために」で、絶滅してしまったモア（骨格レプリカ）、ドードー（復元模型）などの標本を見ると、私たち人間が環境を破壊し、これ以上絶滅種を増やすために、どのように鳥たちと共に存していくらよいか、考えさせられた。美しい剥製がたくさん展示された「世界の鳥コーナー」「鳥の起源と進化」で、その生息環境や生態、分布などを解説していただいた、プログラムは終了。鳥について多くのことを学んだ有意義な研修会でした。



山階鳥類研究所 十和田湖近辺のオオワシの剥製

